井の頭恩賜公園開園100周年カウントダウン新聞

井の頭 いのきちさん

吉祥寺 三鷹

26号
2016年1・2月号

2016年（平成28年）1月1日

● 編集・発行
いのきちさん編集委員会
編集長　川井信良
東京都三鷹市上連雀 1-12-17
株式会社文伸　気付
電　話 0422-60-2211
ＦＡＸ 0422-60-2200
メール inokichi@bun-shin.co.jp

● 協　力
東京都西部公園緑地事務所
東京都井の頭自然文化園
井の頭恩賜公園100年実行委員会
NPO 法人みたか都市観光協会
一般社団法人武蔵野市観光機構

● 制作支援
株式会社文伸 / ぶんしん出版

井の頭恩賜公園
開園100周年まで
あと1年4ヶ月

連載絵本　カイツブリのツブ助の巻　その③

アオサギ爺さんに案内してもらい、ツブ助は多摩川へやって来ました。井の頭池と違い雨が降ると流れは速くなり、時には鷹が飛んで来ます。でも川の中にはツブ助の好きな魚がいっぱいいるので、何とか生きていけそうです。「アオサギ爺さんが迎えに来てくれるまで、頑張ろう。」とツブ助は思いました。

絵　せのうさちこ　文　瀬能けい子

せのうさちこ　1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。
瀬能けい子さんは母親。

INFORMATION　2016年1～2月

井の頭自然文化園

●「Visit ほっと Zoo 2016」開催中
冬にしか味わえない動物園・水族園の魅力満載のキャンペーンを実施しています。

メインイベントはこの4つ！
1. みどころを「ほっとポイント」としてご案内!
2. 「電車でまわろう! 動物園・水族園スタンプラリー」
3. 「ほっと」な瞬間の写真を募集。「ほっとフォトコンテスト」
4. この冬限定のメニュー・商品はおいしさ・楽しさ満載!

●文化園コンサート「February Concert at The Zoo」
毎年恒例のコンサート。寒い冬、皆さんの心をあたたかくするような音楽を動物園からお届けします。
各日：13:30～　場所：彫刻館Ｂ館　定員：150名
出演　2/ 7（日）「東京藝術大学 D年オーケストラ」
2/14（日）「遊佐未森」　2/21（日）「妹尾武」　2/28（日）「麻衣」

東京藝術大学 D年オーケストラ

遊佐未森

妹尾武

麻衣

●夜の文化園コンサート
「February Concert at the Zoo_ Special Jazz Night」
毎年2月のコンサート特別編として夜の彫刻館で実施します。
日時：2/27（土）18:00～19:30　出演：宮沢克郎他
※事前募集・有料のイベントです。

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html

井の頭恩賜公園

●「かいぼり27」魚類等捕獲イベント（お茶の水池・ボート池）
1月23日（土）、1月24日（日）

【ネイチャー☆プログラム】　次世代を担う子供たちや公園を訪れる人たちに、わかりやすく楽しく「自然の仕組み」を学び遊んでもらうプログラムです。

●あおぞら実験室（井の頭池付近）　1月17日（日）、2月7日（日）、3月6日（日）
●グリーンバード（井の頭池付近）　1月10日（日）、1月24日（日）、2月14日（日）
2月28日（日）、3月13日（日）、3月27日（日）
●どんぐり広場（御殿山広場）　1月28日（木）、2月25日（木）、3月17日（木）

詳しくはホームページをご覧ください。　http://www.i-np.jp/index.html　に載せます。

井の頭かんさつ会

● 第129回「冬の野鳥観察を楽しもう」　1月17日（日）9:30～12:00
● 第130回「池底かんさつ会」　2月（実施日未定）10:00～12:00

事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP　http://www.kansatsukai.net/　に載せます。

1級渡邊安浩 のいのけん受験講座答え合わせ

Q1. ① 納涼花火　② ミス井の頭　Q2. 外来　Q3. アライグマ

井の頭自然文化園の動物たちと飼育員　その7

アジアゾウ と 宮路良一（みやじりょういち）さん

井の頭自然文化園一の巨体で、日本最高齢のアジアゾウ、はな子。飼育員の宮路良一さんは、はな子を担当して３年目。昨年４月に４人チームのチーフを前任者から引き継ぎました。

まだ屋外にいたいはな子を「おーい、おかえりー」のひと声で檻に呼び戻したり、つい好物のパンや甘いものから食べてしまうはな子に、必要な栄養分を含んだ蒸しニンジンを口まで運んだり。厚い信頼関係は、じっくり時間をかけて育んできたといいます。「距離感を縮めようとして焦ってはダメ。初めは、そのうちはな子が認めてくれるだろうと、大きく構えていました。だんだん鼻で僕の体に触れることが増え、おとなしい目をして、いい時間を共有できているなあと感じられるようになって、今があります」

チームの全員が同じ立場で、責任感を持って飼育に当たることが、はな子にはもちろん、飼育員の身を守るためにも大切だと説きます。「チーフの務めは、情報を伝えること。冗談を言って和ませるし、おやつの差し入れもします」と気遣いを忘れません。

どんな気分の日でも出勤した瞬間に気持ちを高揚させて、はな子やチームのメンバーには穏やかに接します。「僕はアクター」がモットー。ベテランの自信が垣間見えました。

小田原 澪（おだわら みお）　編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

26 今月のはな子

69歳になったはな子

はな子がタイから日本にやってきたのは1949 年（昭和24年）、今から67年も前のことでした。当時2歳と推定されたはな子は、誕生日が不明なため、1月1日を誕生日としており、今年で 69 歳になります。

アジアゾウの日本長寿記録を更新し続けて4年目、当時から現在に至るまではな子は職員による徹底された温度管理（25号掲載）と特別メニューの食事によって、老齢ながら健康な暮らしを保っています。アジアゾウの歯は本来4本ですが、はな子には歯が1本しか残っていません。噛むことが難しいため消化の良い食べ物が必要となります。バナナは全て皮をむき、ニンジンはふかして柔らかくします。食事の時間ははな子の体調に合わせて1日数回、時に10種類以上にもなるメニューをはな子の前に並べ、選んで食べてもらっています。

はな子の69歳のお祝い会は、冬の寒さが和らぐ3月の予定です。毎年工夫を凝らした食べ物のプレゼントが用意されますが、今年ははたして何が贈られるのでしょうか。楽しみにしていて下さい。

（井の頭自然文化園 教育普及係　阿部万純）

井の頭公園の生き物たち　その26　ウキゴリ

井の頭かんさつ会　田中 利秋（たなか としあき）　井の頭かんさつ会代表。毎月自然観察会を開催。池の外来魚問題にも取り組む。

若魚

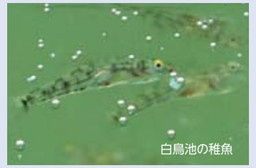
絶滅か、復活か

全長13ｃｍに達する面長のハゼです。メスが岩などの下面に産み付けた卵をオスが孵化まで守ります。誕生した仔魚は海に下り、ある程度成長してから、群れで川を遡上します。初夏の荒川水系の川で、上流へ向かう稚魚たちが途切れることなく続く光景を見たことがあります。

井の頭池でウキゴリの姿を毎年見られたのが、水生物園の白鳥池でした。5月か6月、何匹もの稚魚が水中に浮かんでいるのがガラス壁から見えるのです。多くのハゼが少し成長すると底生生活に移るのに対し、この魚は稚魚がかなり大きくなるまで浮遊生活を続けます。「浮きゴリ」という名の由来です（ゴリとはハゼのことです）。

その白鳥池のウキゴリが絶滅したようです。2015年は稚魚が確認されず心配していたのですが、今回の弁天池のかいぼりで1匹も見つかりませんでした。白鳥池は弁天池の一部です。ふわふわ浮かんでいる稚魚はオオクチバスなどに捕食されやすく、生存率が低そうです。白鳥池のウキゴリは海へ下らずに成長していたと考えていますが、かいぼりのために弁天池とボート池の間に仕切りができたことは、新たな稚魚の遡上を難しくしたかもしれません。

2014年1月のお茶の水池などのかいぼりでも、ウキゴリは1匹も見つかりませんでした。昔から井の頭池にいたこの魚が全池で絶滅となりそうでしたが、幸い、2015年にはお茶の水池の網に何度も入るようになりました。2014年6月に白鳥池に現れた稚魚を20匹ほど捕獲して、かいぼりで外来魚が減ったお茶の水池に放流したことがあり、それが獲れたのかもしれません。しかし、ひょうたん池でも稚魚が何度か網に入ったことから、神田川から遡上してきたものが多いと考えています。神田川も改修が行われ、小さな滝（段差）ができるなど、昔とはだいぶ違う川になりました。しかし、池と川と海の連続性は、その間を行き来して命を全うする生き物には、昔も今も欠かせないことです。


白鳥池の稚魚

26 カイツブリの眼

来園者に情報を提供する「かいぼりステーション」に、かいぼり隊が制作した巨大な張り子のカイツブリがいます。すばらしいできばえですが、前方から眼が見えないのが私としては気になっています。前号の写真でも分かるように、本物のカイツブリは両眼が見えます。逆に言うと、カイツブリは前方を両眼で見ることができるのです。逃げ回る小魚をはっしとくわえ捕るには、獲物との距離を正確につかめる両眼視が欠かせません。とはいえ、眼を実際のように頭のなめ前に置くと表情がきつくなるので、可愛く見えるように少しずらしたのでしょう。かんさつ会のシンボルマークも同じです。

本物のカイツブリを横から見ても前から見ても、瞳が眼球の中心に見えることにお気づきでしょうか？ ハンターであると同時に、天敵から狙われる存在でもある小さなカイツブリは、前方も側方も見える広い視野を持っているのです。生き物の形はその生活と密接に関連しています。

かいぼり隊のカイツブリ

井の頭かんさつ会　田中 利秋　http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/

楽園はよみがえるか

カイツブリ通信

カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる、小さな水鳥です。池や川にカップルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

26枚目 イノカ・コガノメ

写真　古賀 親宗（こが もとのり）
1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。

『いのきちさん』について

都立井の頭恩賜公園が2017年5月に開園100周年を迎えます。**『いのきちさん』**は、もうすぐ100歳を迎える井の頭公園に、感謝の気持ちを込めて、地域の市民と企業と団体の協力により発刊された100周年カウントダウン新聞です。名称は**井の頭公園の「いの」**、隣接する**吉祥寺の「きち」**、井の頭池が市内となる**三鷹市の三「さん」**を並べたものです。
（奇数月1日の隔月発行です）

募集

井の頭公園の古い写真を集めています

◀昭和25年頃の井の頭池　写真提供：鈴木育男氏

2017年の井の頭恩賜公園開園100周年を記念して、井の頭公園の今昔を伝える写真集を刊行する予定です。井の頭公園の古い写真をお持ちの方で、写真集に掲載しても良い方はご一報願います。

なお、お借りした写真は、スキャニング後、速やかにご返却いたします。また、謝礼として、完成した写真集を謹呈いたします。

お問い合わせ　ぶんしん出版
☎0422-60-2211（担当：宮川）
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 1-12-17

この印刷製品は、環境に配慮した会社にて製造されています。
GREEN PRINTING JPN P-010010

私と井の頭公園 その26

この公園は春と秋がいいですね

宮地泰隆（三鷹市在住）

井の頭池の南側斜面に美味しいコーヒーを出す小さな店がある。ブルースカイコーヒーという店である。テイクアウトが主流だが、店先でも楽しめる。まさに現代の茶店である。店は7年前、宮地さんが33歳の時に開店し現在に至っている。

公園のそばでテイクアウトのコーヒー店を出したいと思っていたのです。公園のベンチでゆっくりと味わっていただければうれしいなと。

ご縁があって井の頭公園の中で営業していますが、ここは特に春と秋がいいですね。春は桜が咲き乱れ、散るころには木々の若葉が顔を出し、秋は紅葉がすばらしい。土日はお客様が多くて商売的にはうれしいのですが、平日の静かな時間帯は落ち着いたとてもいい雰囲気になります。そういうことでは、野外ステージやアーツマーケッツでアンプを使っていたりしますが、アンプによる大音量はこの公園にはふさわしくないですね。井の頭池に浮かぶ色のついたボートも似合いません。

お店のコーヒーは、信頼のおけるところからいい豆を仕入れて焙煎しています。リピーターのお客様が増えていますが、美味しさとリーズナブルに感じる価格が評価されていると感じています。お店をやっていて改めて教えられたことは、みんなの幸せを考えていくことが、結局自分の幸せにつながっていくんだな、ということです。

（ブルースカイコーヒー代表　みやち　やすたか）

（聞き手・写真　川井信良）

川井信良（かわいしんすけ）
70年代80年代に、三鷹でミニコミ「またんぴ」や「みたかきいたか」を発行。

よみがえれ！井の頭池 26

▼池の南側に設置された「かいぼり屋」の主は、なんと巨大カイツブリ！壁には捕獲された魚の種類と数が。

いよいよスタート。「かいぼり27」に注目！

「かいぼり25」のときには唯一手を付けられなかった弁天池ですが、「かいぼり27」ではお茶の水池とボート池に先立って11月10日から水抜きが始められました。21～23日には魚の捕獲もスタートし、三連休を通して「かいぼり隊」を含む市民のべ約250人が参加。その後も湧水が多く池の水位が下がらない時でも、投網等も活用しながら「井の頭かんさつ会」や「かいぼり隊」の市民によって捕獲がどんどん進められています。

井の頭恩賜公園100年実行委員会のWEBサイト中の「かいぼり27だより」に、写真もふんだんに進捗が逐次報告されています。ぜひのぞいてみてください。

1月から3月にかけては、お茶の水池とボート池でもかいぼりが実施され、土日祝日には「池底ツアー」も企画されています。歴史的な「かいぼり」の期間にだけ体験できる池底歩きです。お見逃しなく。

井の頭恩賜公園の歩み 第26話

自然文化園の彫刻園は「平和祈念像」の生地

自然文化園の奥にある「彫刻園」。動物を見る面白さの陰にかくされてか、その存在を知らない人が意外と多いようです。でも実は、第二次世界大戦後、彫刻家の北村西望が巨大な「平和祈念像」を制作したアトリエもそのまま残されていて、見所が盛りだくさんです。でもなぜ、ここに？…というのが今日のお話です。

▲ 昭和 28 年（1953）早々に完成したアトリエ。

◀彫刻館 A 館に展示されている像は、長崎の平和祈念像と同寸。

北村西望の回想録『百歳のかたつむり』（日本経済新聞社）によると、「アトリエは昭和二十八年早々には建った」とあります。この『いのきちさん』の発行と同じ季節のことでした。

「原爆犠牲者の冥福を祈る記念碑を」という長崎市からの依頼に対して、原爆と平和と犠牲者の冥福の三つの要件をこめた像として西望が構想したのは、神仏一体の境地の聖哲の座像でした。

「長崎が原爆を落とされた最後の地で、ここから平和が始まった」と平和を前面に出すことを主張し、「平和祈念像」と命名したのも西望でした。

大きければ大きいほど世界の人にアピールできると考え、構想段階では高さ四十尺（約十二メートル）を目標にしましたが、予算の都合でアトリエ建設に鉄筋が使えず、木造だと建築基準で建物自体の高さ制限が四十尺。西望は涙をのんで、像の高さを三十尺の計画に変更したのでした。

長崎出身の彫刻家である西望が、制作依頼を受けたのが昭和25年（1950）。八尺像までの試作は、北区西ヶ原の高台にあった当時のアトリエで進められましたが、早晩、巨像の制作は不可能なことが判明し、都に土地の提供を願ったのです。その背景には、西望が戦前戦中に美術館建設のために購入していた土地が、戦後、公園地や学校地に指定されて都に買い上げられてしまった経緯がありました。「平和像は公共的性格のもので、単に私益のために作るのではなく、世界平和という理想を訴えるために作る。従って、東京都にこう願い出るのも、不当ではないはずと、私は信じた」

全作品を都に寄付することを条件にこの地を借り、「平和祈念像」の制作に打ちこんだ西望。像が完成したのは、昭和30年（1955）。彫刻館は、平和への熱い思いを今に伝える場なのです。

安田 知代

安田 知代（やすだ ともよ）
編集者・ライター。『井の頭公園＊まるごとガイドブック』『懐かしの吉祥寺・昭和29・40年』編著。

第7回 1級渡邊安浩 のいのけん受験講座

今回は、いのけん1級問題です。
（　　）内を正しい文字で埋めてください。

答えは裏面のインフォメーションのところだよ

Q1 1950年代、井の頭恩賜公園では数々のイベントが開かれました。なかでも夏の（　①　）大会と（　②　）コンテストは季節のメインイベントでした。

Q2 井の頭池で現在最も多く見られるカメはクサガメです。クサガメは従来在来種と考えられていましたが、近年の研究で（　　）種であることが明らかになっています。

Q3 井の頭自然文化園で飼育している哺乳類の内、特定外来生物に指定されているのはアカゲザルと（　　）です。